

# 魅力再発見によるゲンキな地域づくり

ハート to ハート (ふるさとひょうご創生塾15期生)

研究期間：平成23年6月～平成24年4月

## 1. はじめに

過疎化、高齢化によって地域の疲弊、衰退が指摘される中、地域活性化のために地域資源を活用して交流人口を増加させようとそれぞれの地域では行政と住民が協働してさまざまな取り組みがなされている。住民が主体的に地域にかかわり、つながりを持ち、地域づくりに取り組む担い手を増やしていくためには、地域への愛着（ふるさと意識）を育むことが求められている。そこでふるさとひょうご創生塾15期生「ハート to ハート」では、淡路市長沢地区をフィールドに、地元住民や学生（若者）と協働してさまざまな視点から地域の魅力を再発見し、最終的には地域住民と問題意識を共有し地元愛と関心を深めることで、住民がまちづくりにかかわれるきっかけづくりの場をつくれるのではないかと考えた。地域の魅力再発見による地域再生の可能性と課題について研究活動を行った結果を報告する。

## 2. ふるさとひょうご創生塾とは<sup>注1)</sup>

兵庫県ではこころ豊かな兵庫をめざす県民運動を担う地域リーダーの育成と交流の場として“こころ豊かな人づくり500人委員会”など、県域全体で、または県内圏域ごとに住民主体の地域づくりに取り組む気運は高まっていた。また急速に進む少子高齢化、情報化や、価値観の多様化が進むなか、地域社会がそれに対応していくためには、地域づくりのリーダーにもさまざまな地域課題の解決にあたるための広い視野と専門的かつ高度な知識が必要であるとの認識が高まり、県において新しい学習機会の検討が始まった。

そんな中で発生した阪神淡路大震災は、高齢化問題、都市づくりのあり方、災害時要援護者への対応など、それまではっきり見えなかった都市や地域社会の抱える課題を明らかにした。また、人はコミュニティを離れて生きていくことはできないことを人々に認識させた。そこには、地域と地域、人と人を結ぶネットワーク型の「新しいコミュニティ」の芽が見られた。こうした震災の経験や教訓を踏まえ、ふるさとひょうご創生塾は新しい社会を切り開く強力な個性をもつリーダー“ふるさとひょうご創生マイスター”の育成をめざして開設された。

## 3. グループ活動のおこり

ふるさとひょうご創生塾では、大きく1年次と2年次に工程を分けて学習を行う。1年次は、塾生間の関係性を作る導入講座、企画力や実践力を高めるため社会動向、住民と自治、コミュニティ論、地域づくり、ボランティア論などを学ぶ基礎講座を経たあと、グループ運営や会議運営法、実践活動の企画づくりを学ぶ実践講座などの学習を行う。続いての2年次は実際に地域活動を実行するために、班分けを行い、班別に自主的な問題を設定して活動を行う。

環境や青少年の育成、高齢者の生きがい創出などさまざまなテーマが出る中で、「元気な地域づくりに寄与する活動」を目的に共感したメンバー5名が集まり、「住民参加型のまちづくりとは」を研究課題として「ハート to ハート」5人のメンバーとして発足した。

## 4. テーマの選定

### ① 研究の背景

現代社会において、個人情報保護の名のもと、人と人のかかわりを嫌う「個人主義」が尊重されるようになってきた。加えて、核家族化や女性のライフスタイルの変化、少子高齢化によって「向こう三軒両隣」のような日本の古きよき伝統文化が姿を消しつつある。その結果、人と人とのつながりが希薄になり、地域の伝統文化や自然に関する関心、郷土愛も薄れ、地域資源が豊かであるにも関わらずそれが継承されずに生かされていないと感じる。今、さまざまな形で地域の魅力を受け継いでいこうとする取り組みが行われている。住民が主体的に地域にかかわり、つながりを持ち、地域づくりに取り組む担い手を増やしていくためには、地域への愛着（ふるさと意識）を育むことが求められている。そこでハート to ハートでは地域住民がふるさと意識を育み、地域とのつながりを持つ人を増やして、元気な地域づくりに寄与することを目的に研究を開始することとした。

地域づくりには外部からの客観的な意見も必要であるが、住民など地域に関わる人が自分のこととして事業にかかわることが大切である。そこで、地元自治会や学生などと協働し、さまざまな視点から地域の魅力を再発見し、最終的には地域住民と問題意識を共有し、地元愛と関心を深め、まちづくりにかかわれるきっかけづくりの場づくりも

したいと考えた。

研究活動の場としてのフィールドは、淡路市長沢地区とした。ここは小規模集落として以前より兵庫県ならびに淡路県民局が中心となって活性化を図っている地域でありながら、これからの地域活性化の指針に苦慮している地域である。加えて、地元大学の兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 林まゆみ准教授が授業の一貫として長沢地区をフィールドに地域活動を実践する。そこでこれら学生たちとも協働し中山間地域をフィールドに「住んでよかったと思えるふるさtoを目指して」をコンセプトに研究活動に取り組むこととした。また、ふるさとひょうご創生塾は基本的には単年度事業であるが、研究成果を継承していただける地域として、この事業に積極的にかかわっていただけるよう長沢地区に依頼したところ快諾を得ることができた。まちづくりの根幹を担うのは住民であり、その存在を無視して地域活性化を述べることはできない。当事者としての住民の参画を得ることがこの研究事業の大きな成否であるところから長沢地区を我々の研究フィールドとして選定をする理由となった。